

「自学力の育成」

～課題解決型の授業づくりの工夫を通して～

1学期も終わりに近づいた7月14日(木), 八幡小学校の橘教諭による5・6年生(複式)の授業提案により第1回目の小中合同授業研究会を実施することができました。多忙の時期にもかかわらず全員参加で実施できましたことに、皆さんの意欲と熱意を感じました。

今月号は、授業研究のまとめを掲載します。紙面での授業研究の振り返りを共有し、さらなる「主体的な深い学び」をめざした授業づくりを進めて参りましょう。



八幡小学校 5・6年生 算数科研究授業

授業者 橘 隆史 教諭

第5学年「整数の性質を調べよう」

第6学年「角柱と円柱の体積」

指導助言 広島大学大学院 教育学研究科

教育学講座 准教授 吉田 成章 先生

1 グループ討議① 各学校の研究の視点に照らしたまとめ

グループ討議① 吉舎小学校

《つかむ》

○学習者基点の学びにつながる課題設定がよい。

(身近で興味深い問題の提示や比較による思考のための手立てがあった)

○既習事項を活用し、児童の言葉で、解法や解答の見通しを立てさせて、課題を設定している。

《考える》

○具体物(方眼の三角柱)で確認できるように手立てを講じ、自分の考えをノートに書かせることができている。

《深める》

○学び合う風土づくりができている。

(学習リーダーを中心として、主体的に児童同士が語り合い・関わり合う姿がみられた)

○具体物を使って、示しながら、自分の式・考えを説明し合う活動がよい。

○本時のゴールに到達するための教師の支援が適切であった。(発問等)

▲ホワイトボードに書いた考えを一つに絞る⇒誤答(底面積の意味の捉え)等を吟味する活動を取り入れてはどうか。

《振り返る》○自分の言葉でまとめ、振り返る。



グループ討議① 安田小学校

○自校の取組に照らした研究授業に関する気づき

- ・複式授業の流れがよくできており、リーダー中心に進めていた。

(導入の工夫について)

- ・6年生導入において、児童にとって身近な題材を扱っていてよかったが、ケーキの種類を同じにしておいた方がよい。
- ・お得感や重さを扱うとすれば、ケーキではなく、透明な三角柱・四角柱の入れ物を準備し、どちらに多くジュースが入るか…とすると、実際に同じ入れ物に入れなおすと視覚的にも重さ的にもよくわかるのではないかという代替策。

(練り合いの工夫について)

- ・ノートを中心に児童が話し合い、一つの意見にまとめようとしているのはよかった。

グループ討議① 八幡小学校

○自校の取組に照らした研究授業に関する気づき

- ・6年では「どのケーキが得か。」という生活場面とのつながりがある課題であり児童の関心を引くものであった。また、2つの図を比較させ課題設定させる等の工夫が良かった。
- ・課題提示→見通しへと、入るのではなく香川大学付属坂出小学校の教育実践のように、課題提示→知りたいこと→見通しへと進めていくことができていた。
- ・学習リーダーが、「知りたいこと、見通し、めあて」まで、児童たちに考えさせて、それを集約し、一つに絞り込んでいた。
- ・課題発見→生活場面の事象を取り上げたり、ゲームを通して興味を引かせたりと、課題の工夫がされていた。
- ・今後の授業でも集団解決において、多数の意見を発表させて、それを1つの答えにするように集団で話し合わせていく。(自校の取組：聴き合う授業づくり)
- ・授業者の発言が短く的確なので、子どもたちが考える場が多かった。
- ・5年生の課題提示の工場見学の表は提示せず、導入にブラックボックスで意欲を持たせすぐに自力解決・集団思考と流していれば適用題まで行けたのではないか。



グループ討議① 吉舎中学校

○自校の取組に照らした研究授業に関する気づき

① 課題発見一問いのもたせ方

- ・導入の工夫が参考になった。問題を写真や絵で提示するなどの工夫、身近なものや関心を引くものを持ってくることで「なぜだろう」「考えてみたい」等の課題発見や課題解決の意欲に繋がっていた。

② 自力解決—根拠を用いたノートづくり

- ・自分の考えや友達の考えをまとめたノート作りになっていた。自分の言葉でまとめることが定着していた。また更なる練り合いにもそのノートが活躍していた。
- ・既習事項がしっかり身についている。

③ 集団解決—聴きあう授業づくりの工夫

- ・つなぎ言葉を使って友達の意見を上手にまとめていた。
- ・学習リーダーを中心に集団解決をしていた。主体的な学びになっていた。

④ 振り返りのさせ方

- ・児童の言葉でまとめさせていた。協同的な学びに繋がっていた。

⑤ その他

- ・本時のまとめから新たな課題へと繋がっていた。
- ・八幡小の複式授業から多くのヒントを得ることが出来ている。
- ・予習・復習ができる教室感、教科リーダーの必要性、学び合いの必要性等が参考になった。



2 グループ討議②「自ら学び、考え、自立した行動ができる『きさ』の子どもを育成する」にどんな授業づくりを目指していくのか。

①課題発見一問いのもたせ方

- ・課題設定の工夫
- ・本時の課題につながる導入の問題も、考える視点を示す。
- ・単元を貫く題材を用いることで、児童の意欲を高めることや、見通しを持ちやすくすることにつながる。
- ・問題に、比較を用いると児童の意欲が高まる。(図や表で効果的に)
- ・問題に対する所要時間を予想させ、児童に時間設定をさせていくことも主体的な学びに通じる。
- ・生活場面とつながりのある課題設定を効果的に行う。



②自力解決—根拠・算数用語等を用いてのノートづくり



- ・既習事項を活かして自力解決に取り組ませる。
- ・思考の過程を分かり易くノートに書く。
(図に数値や底面積・高さなどの算数的用語を書き入れる)
⇒ノートを見ながら説明をし合う活動
(ペアトーク・集団解決)につなげる。
- ・自分の解法(考え方・求め方)をキーワードで表す。
- ・1時間ずつの授業の内容をしっかりと学習させ、本時の見通しや自力解決につなげる。

③集団解決—聴き合う授業づくりの工夫

- ・誤答を生かし、児童の思考を深めるチャンスにする。
- ・多様な考えを引き出す。
- ・根拠を明らかにし、図・式と関連付けて説明し合い、考えを広げ深める。
- ・思考過程の表現を共有する。(共通点・相違点) ⇒ 構造的な板書
- ・直方体の体積を求める公式から類推して底面積×高さの公式を見出し、一般化していく数学的な考え方を育てる。(体積を求める公式は、底面積×高さで全て同じ)
- ・他者の意見を聞いて、自分の考えとの違いを確認する等の比較考察をさせていく。

④振り返りのさせ方

- ・思考過程を振り返りながら、児童の言葉でまとめる。
- ・振り返りの視点を明確に示す。(友達の考えから～、○○の考え方について～、・・・等)
- ・次時の予告で意欲の喚起。(自主学习でやってみようという気持ちにつなげる)
- ・本時の学習内容が理解できているか、適用題まで行うことが大切。

⑤その他

- ・算数リーダーを中心として、児童で授業を進めていく姿が見られた。今回の授業の様子に、教師の発言が少なくても、児童の「知りたいこと・見通し・解決・まとめ」で展開していくような授業を目指したい。



3 吉田 成章先生の指導助言から

○ 八幡小学校の研究テーマ「聴き合う授業づくりの工夫を通して」という視点から



今までの研究の積み上げにより、児童は自分の思考をノートに書いて考えるということができている。そこで今回は、ホワイトボードにノートに書いたことをまた書き写して集団思考の際にそれを使って説明するという方法によるタイムラグをなくすために、児童が自分のノートを持ち寄って、互いの考えを「聴き合い」一つの見解を仲間とうち立てるといった授業づくりの工夫を提案した。

児童の誤答を子どもたちの話し合いの中では取り上げられなかったが、授業者が終盤、そこを取り上げ指導することで誤答した児童の思考の修正はできた。

○ どんな「資質・能力」をつけていくのか、「自学力」をつけるとはどんな「見方・考え方」をさせるのか、つきたい力はどんな力なのか・・・

小学校・中学校段階での「能力・資質」の定義は難しい。研究するに当たり「自学力」を「つきたい力」と設定し、「どんな見方・考え方」をさせていきたいのか、目標—内容—方法—評価に分けて整理していくとよい。

○ 自主へのつながり

自分たちで時間設定をして、学習を進める授業スタイルは判断力等を養っている。また今回の授業では、自力解決のツールとしての方眼紙を使った三角柱の模型が大変有効であった。つまづいた時の「足場かけ」(心理学用語:つまづいた時に自力で次のステップに上るための足掛かりとなる働きかけ)となった。今後は、自分たちの学ぼうとしていることや学んだことを、まとめとして整理するだけでなく、本校でも取り組んでいるようにメタ認知的に「振り返り」で自分たちの学びを評価・分析できる児童を育成していったほしい。

合同研修会を終えて 八幡小学校 安藤 正弘

本年度最初の吉舎中学校区全員による授業研究を行いました。昨年に続き、八幡小学校から授業提案をしました。「自学力の育成」に向けて、どのような授業をめざせばいいのか。香川大学附属坂出小中学校の研究会に参加して共有した先進校の授業イメージをもとにしながら、吉舎中学校区ではどのような改善をしていくべきなのかを研修していただきました。



5・6年生の算数科の授業を全員の先生方に見ていただきました。5年生は「奇数と偶数」6年生は「体積」です。見通しを持ち、自分で考えたことをノートに書き(自力解決)、全員の考えを交流しながらホワイトボードに求める方法をまとめていきました。5年生も6年生も、自分が考えたことをノートに書き、友だちの意見をしっかりと聴きながらどの考えが求められている答えになるのか、先生に納得してもらえるのか、よく考え、友だちの考えを聴き合う授業提案でした。

授業提案を受けての合同研修会では、各学校の研究の視点を絞ってから、グループに分かれて、自学力育成に向けて「どんな授業づくりをめざしていくのか」を中心に協議を行いました。

グループごとの協議内容を交流したのち、吉田准教授から講話をいただきました。

今後、「何を知っているか」という知識を重視する学び(授業)から、学びの変革アクションプランに示された資質・能力の育成に向けての取組は、吉舎中学校区が育成しようとしている「自学力」と同じ目標に向かっていることを示していただきました。

学習者基点の学びのある授業に改善する、自分の学びを評価・分析のできる学習者を育成するためには、授業に対する意識改革とねらいを焦点化して資質・能力を評価することが指導者に求められていることを改めて確認できる研修会になりました。